

2017.2.16

福岡・柳川 川下り年38万人

「掘割救った男」に脚光

年三十八万人の川下り客が訪れる福岡県柳川市の豊かな掘割。その掘割を、昭和五十年代に浮上した埋め立ての危機から救って再生させた元市職員の業績を顕彰する常設展示コーナーが、市の施設の一角に設けられた。元職員の名は、広松伝さん(一九三七―二〇〇二)。資料や写真を展示し、「掘割を救った男」の業績を次世代へ伝えている。

元市職員の業績常設展示

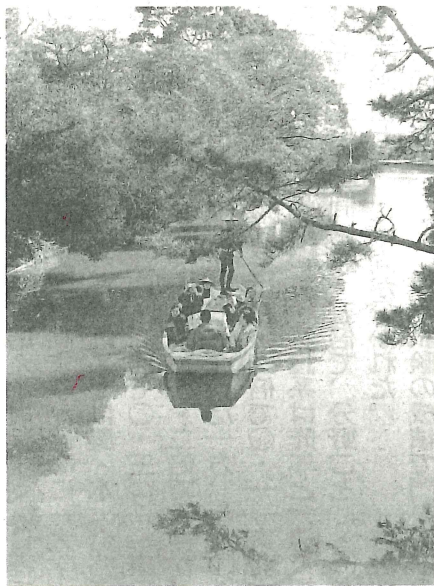
任。計画内容に驚き、「掘割を埋めれば柳川は滅びる」と市役所内で一人だけ反対した。

水辺景観の維持、地下水の保全など掘割の多様な役割を説いた五十一ページの手書き文書をコピーして市役所内に配布。最後は、当時の古賀杉夫市長に直談判して、計画を撤回させた。その上で、住民説明会を百回以上開催。市民ぐるみの浄



広松伝さん(左)と妻の美代子さん(右)の提供による写真

柳川の掘割は昭和四十年代、急速に汚濁が進行。ヘドロがたまり悪臭を発した。市は一九七七年、川下りコースの一部を残し、他の掘割は埋め立てるか、都市下水路にする計画を立てた。



美しくよみがえった現在の掘割＝福岡県柳川市

広松さんは同年四月、計画を実行する担当係長に着

化作戦を展開し、三年二月で掘割を再生させたという。

その取り組みは、高畑勲監督、宮崎駿さん製作の長編ドキュメンタリー映画「柳川掘割物語」(八七年)で全国に紹介された。展示場所は市複合施設

「柳川あめんぼセンター」内の「水の資料館」。よみがえった掘割の前では笑む広松さんの遺影や、「郷土の川に清流を取り戻そう」と題した広松さんの手書き文書のコピー、「柳川掘割物語」のパンフレットなどを展示。七〇―八〇年代に広松さんが撮影した掘割の写真四十五枚も閲覧できる。

妻の美代子さん(右)は「亡くなって十五年。考えもしなかったことで、夫も天国で喜んでいると思う。掘割はかけがえのない遺産と訴え続けた夫の思いを引き継いでほしい」と話す。